

「総合的な学習の時間」モデル事業中間報告書

推進地域名 福岡県

I 地域の概要（平成15年4月現在）

福岡県	モデル校数：小学校5校、中学校2校、高等学校1校
前原市地域	モデル校数：小学校3校、中学校1校
二丈町地域	モデル校数：小学校2校、中学校1校、高等学校1校

II 福岡県における「総合的な学習の時間」の現状

1 福岡県として「総合的な学習の時間」の改善、充実を図るねらい

総合的な学習の時間のねらいを達成するため、県として平成15年度の具体的方策として、以下の点を掲げた。

- ① 総合的な学習の時間の趣旨を生かす指導計画の作成
- ② 総合的な学習の時間の趣旨を生かす学習指導の工夫・改善
- ③ 総合的な学習の時間における目標に準拠した評価の実現
- ④ 教育課程の実施状況の調査

そのために、モデル事業が県全体の総合的な学習の時間の推進に資するよう支援していく。

2 福岡県における「総合的な学習の時間」の問題点とその背景

- 学校間連携という観点での「総合的な学習の時間」の問題点
 - ・ 小学校と中学校の学習内容や活動の重複が見られ、中学生に一部学習意欲の減退が見られる。
→ 学校間の情報交換が不足している。
 - ・ 年間指導計画の中に学校間（小中高）連携の視点が位置づけられていない。
→ 各学校、学校間連携の意識が低い。
- 地域の教育力の活用という観点での「総合的な学習の時間」の問題点
 - ・ 各学校における人的資源や物的資源の情報量が少ない。
→ 学校間、学校と地域間の情報交換が不足している。
 - ・ 地域の人的資源や物的資源の重複が見られ活動に支障を来している。
→ 学校間、学校と地域間の情報交換が不足している。

III 平成15年度の実践研究の概要

1 福岡県の抱える問題点をふまえて定めた、推進地域全体としての研究の計画・見通し等

- 【2年間を通じた研究の計画・見通し】
- ア 地域の人的資源や物的資源の有効活用の在り方を究明する。
→ 2年間の期間中に、地域の人材・施設一覧を作成し、各学校に配布し活用していく。
 - イ 小中高の発達段階における目標や学習内容・活動等を明らかにする。
→ 2年間の期間中に、小中高における身につけさせるべき力の系統化一覧と主に「環境」「福祉」における学習内容の系統化一覧を作成する。

- ウ 小中高の人的交流の在り方（児童生徒間・教師間）を究明する。
- 2年間の期間中に、小中高における児童生徒間の相互交流ができる単元や活動の洗い出しをする。
 - 定期的に教師間の情報交換の場を設定し、総合的な学習の時間の充実を図る。

【モデル事業としての取組の評価の観点と検証の方法】

アについて

地域の人材・施設一覧を作成し、各学校に配布するとともに、活用状況を調査する。

イについて

身につけさせるべき力の系統化一覧及び主に「環境」「福祉」における学習内容の系統化一覧が、実態に沿うものであるかどうかを児童生徒及び教師対象の意識調査を実施し、明らかにする。

ウについて

- ・年間指導計画の中に、児童生徒間の相互交流ができる時期や内容を明記する。
- ・定期的な教師間の情報交換の場が、総合的な学習の時間の充実に有効であるかどうかを教師対象の意識調査を実施し、明らかにする。

2 本事業の推進体制

※ 別紙参照

(1) 前原市モデル地域（加布里小学校：事務局）

- 連絡協議会：教育長、学校教育課長、校長、教務主任、担当者、県教委
- 推進委員会：校長、教務主任、担当者、指導主事
- 事務局会：担当者、指導主事

(2) 二丈町モデル地域（二丈中学校：事務局）

- 連絡協議会：教育長、校長、担当者、公民館長、県教委
- 実行委員会：校長、教務主任、担当者、指導主事
- 推進委員会：教務主任、担当者、指導主事

(3) 前原市・二丈町モデル地域

- 合同研修会

3 平成15年度の実践研究に対する指導と成果の普及

(1) モデル地域に対して行った指導

地域ごとの連絡協議会や実行委員会、推進委員会の中において以下のような点を指導した。

- ① 学校間の連携を図るための協議会の設置
- ② 各学校全体計画の作成
- ③ 身につけさせるべき力の系統化一覧及び主に「環境」「福祉」における学習内容の系統化一覧の作成
- ④ 地域の人材・施設などの教育活用資源のリスト作成
- ⑤ 活動の成果と課題を明確にするため、第1年次の活動報告書の作成

(2) 地域の取組の成果普及のための活動について

- 県の指導主事研修会でモデル地域を紹介した。
- ※ 第1年次は、モデル地域の紹介にとどまり、成果の普及とまではいかなかった。

4 平成15年度の成果と課題

【成果】

- 地域の人材・施設などの教育資源について、小中高間で情報の共有化を図ることができた。
→モデル地域の実行委員会、推進委員会において共有化することができた。
- 小中高における身につけさせるべき力の系統化一覧と主に「環境」「福祉」における学習内容の系統化一覧について大まかなものを作成することができた。
→モデル地域の実行委員会、推進委員会を中心に作成することができた。
- 定期的に教師間の情報交換の場を設定し、総合的な学習の時間の充実を図る。
→前原市・二丈町モデル地域の合同研修会を2回開催することができた。
→モデル地域において、実行委員会、推進委員会を定期的に開催し、総合的な学習の時間に関する情報交換を実施し、相互理解を図ることができた。
- 第1年次の活動報告書を作成することができた。

【課題】

- 小中高における身につけさせるべき力の系統化一覧を意識した授業の展開
→ 事前・事後指導の充実を図り、系統化一覧の改善に資する。
- 「環境」「福祉」における学習内容の系統化一覧を意識した授業の展開
→ 事前・事後指導の充実を図り、「環境」「福祉」における学習内容の系統化一覧の改善に資する。
- 研究成果普及の拡大
→ モデル事業報告会開催への支援を行なう。
→ 第2年次の活動報告書を作成し、県内の小中学校へ配布する。

IV 平成16年度の実践研究の概要

- ① 小中高における身につけさせるべき力の系統化一覧を意識した授業の展開への支援
→ 各学校全体計画に位置づけた身につけさせるべき力の系統化一覧を意識した授業を展開し、実態に即した系統化一覧の改善ができるよう事前・事後指導の充実を図る。
- ② 「環境」「福祉」における学習内容の系統化一覧を意識した授業の展開への支援
→ 「環境」「福祉」における学習内容の系統化一覧を意識した授業を展開し、実態に即した系統化一覧の改善ができるよう事前・事後指導の充実を図る。
- ③ モデル事業報告会開催への支援
→ モデル地域がそれぞれ報告会を開催し、モデル事業の成果と課題を発信していくのでそのための支援を行なう。
- ④ 活動報告書の作成と配布
→ 2年間の研究の成果を普及するために、県内の小中学校へ活動報告書を作成し、配布する。

